

SCIDマウス系における形質細胞腫発症機構の分子細胞遺伝学的研究

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Ohno, Shinsuke メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.24517/00060285 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



[◀ Back to previous page](#)

SCIDマウス系における形質細胞腫発症機構の分子細胞遺伝学的研究

Research Project

| | |
|-----------------------------------|--|
| Project/Area Number | 05152051 |
| Research Category | Grant-in-Aid for Cancer Research |
| Allocation Type | Single-year Grants |
| Research Institution | Kanazawa University |
| Principal Investigator | 大野 真介 金沢大学, がん研究所, 助教授 (70019868) |
| Co-Investigator(Kenkyū-buntansha) | 松島 綱治 金沢大学, がん研究所, 教授 (50222427) 村上 清史 金沢大学, がん研究所, 助教授 (90019878) 早川 純一郎 金沢大学, 医学部, 教授 (50110622) |
| Project Period (FY) | 1993 |
| Project Status | Completed (Fiscal Year 1993) |
| Budget Amount *help | ¥3,000,000 (Direct Cost: ¥3,000,000) Fiscal Year 1993: ¥3,000,000 (Direct Cost: ¥3,000,000) |
| Keywords | SCIDマウス / 形質細胞腫 / 分子細胞遺伝学 |

Research Abstract

我々は、SCIDマウスに、マーカー染色体をもつBALB/c6.15マウス脾細胞を移入する実験系により、少なくともt(6;15)転座をもつ2例の形質細胞腫がSCIDマウス起源であることを見いだした。この知見は、t(6;15)転座型形質細胞腫の標的細胞は、pro~pre-B段階にあるB細胞である可能性を強く示唆した。ところで、奇妙なことに、上記2例の形質細胞腫ABPC-SCID-IM-BおよびIM-Dは、いずれもアロタイプ"a"をもつIgA産生細胞であった。SCIDマウスは、そのIgH遺伝子領域がC57BL/Kaマウス由来の"b"アロタイプ型である以外、すべてBALB/c遺伝子型をもつ。また、本実験に用いられた、マーカー染色体をもつBALB/c6.15マウスは、AKR6.15マウスをBALB/cマウスに戻し交配して得られたもので、いくつかのAKRマーカーを残している。そこで、IM-B,IM-Dと、donor BALB/c6.15起源である形質細胞腫ABPC-SCID-IM-A,C,EとについてSSLP解析の比較を行った。(1)第12染色体の中心体より27cMに位置するSSLPマーカーD12Mit4では、IM-A,C,EがすべてAKRタイプであったのに対し、IM-B,IM-DはともにBALB/cタイプであった。SCIDマウスのD12Mit4は、BALB/cタイプである。(2)ところが、同染色体の中心体より50cMにあるD12Mit7では、IM-A,C,E,B,DすべてがBALB/cタイプであった。この位置、SCIDマウスではB6タイプである。(3)65cMに位置するIgh-C遺伝子は、得られた5例の形質細胞腫すべてについて、"a"アロタイプ(BALB/c型)であった。つまり、SCIDマウスに発症した形質細胞腫ABPC-SCID-IM-B,IM-Dでは、第12染色体の27より50cMの間で遺伝子組み換えが起こり、結果として"a"アロタイプをもつIgA産生細胞となったものと考えられた。

Report (1 results)

1993 Annual Research Report

Research Products (1 results)

All Other

All Publications

[Publications] F.Wiener,S.Ohno,J.Hayakawa: "ABLMYC-retrovirus-induced plasmacytomagenesis in SCID mice" Cur.Top.Microbiol.Immunol.(in press).

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-05152051/>

Published: 1993-03-31 Modified: 2016-04-21